

熊本県立南稜高等学校(附則)、熊本県立南稜高等学校 平成30年度学校評価計画表

1 学校教育目標

南稜高校(附則)の校訓及び南稜高校の三綱領の精神に基づき、人権尊重の精神をすべての教育の根底におき、校長を中心とした指導体制のもと、生徒一人一人の教育的ニーズや学校評価等による課題の把握に努め、学校間及び学校と家庭・地域社会との連携を図るとともに、創意・工夫を生かした特色ある教育を展開し、生涯学習社会を展望して「生きる力」の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

(1) 学校目標スローガン
全ての生徒が輝く心身の健全な発育に基づく確かな学力と豊かな心の育成

(2) 重点目標
「凡事徹底」「プレイヤーズファーストとチームワーク」「本校ならではの特色ある学校づくり」
① 学力の向上、進路第一希望の達成、「南稜スタンダード」の活用 ② 出席率の向上、転学・退学の減少
③ 環境整備(教育環境・校内美化など) ④ SPHの全職員での推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	学校目標の周知	○生徒及び保護者の学校教育スローガン・重点目標認知度 95 % 以上 ○本校ホームページのアクセス数 1 日 900 件以上	○育友会総会や学年集会、教室掲示、育友会新聞、ホームページ、学校便り等での周知を図る	C	○学校教育スローガンと重点目標の認知度は生徒が 58 %、保護者が 72 % と目標を下回った。 ○ホームページのこまめな更新や興味関心の高まる内容を心がけたことで 1 日平均 796 件を達したが目標を下回った。
	生徒募集	入学者数の確保	○全学科、定員 70 % 以上の受検者確保と入学者数 150 人以上	○定期的に中学校訪問や説明会を実施する ○ホームページやマスコミ等を活用し、教育活動の周知を図る ○地域イベントへの積極的参加や地域連携によって理解をさらに深める	A	○中学校での説明会やホームページの充実に取り組んだほか、地域イベントへも積極的参加し、活動の様子がマスコミに 170 件以上取り上げられた。志願状況は全ての学科で 1 倍を超え、志願者数は 169 名で目標を達成した。
学力向上	授業改善	わかる授業の実践	○生徒の 85 % 以上が「授業が理解できた」とする「わかる授業」の推進	○公開授業週間や授業研さんの機会を通して、南稜スタンダードの観点から各教科及び学科内で授業内容の振り返りを図る ○職員への南稜スタンダードの浸透及びその定着を図る機会を設ける	D	○「授業で『わかった』『できた』という達成感がある」と回答した生徒が 73 % である。「南稜スタンダード」の徹底及び生徒への学習に対する意欲向上を図っていくことが必要である。
	学習習慣	欠席防止	○8 クラスで年間出席率 99.0 % 以上	○担任から欠席生徒への連絡や家庭訪問を早期に行い、各部署と情報共有しながら連携して登校支援を徹底する	D	○16 クラス中 2 クラスが 99 % 以上を達成し、98 % 以上は 7 クラスであり、学校全体としては 97.2 %。学習意欲の更なる喚起、及び不登校傾向生徒への継続的な対応を実施していく。
キャリア教育(進路指導)	進学・就職支援	進路目標の達成	○進学・就職希望者とも、志望先への合格・内定 100 % 達成	○課外授業及び模試を活用して判断材料を得ながら、希望調査をもとに面談を重ね、志望先を選択し決定する	B	○現時点(2月末)での合格・内定率は 98.2 % である。進路決定の過程は個々の生徒に因るが、年度内には全員の合格・内定が達成できる見込みである。
	定着指導	就業の継続	○早期離職率 27.5 % 以下	○3 学年部と連携した事業所訪問の機会を利用し、	A	○早期離職率は 21.1 % である。キャリアサポーターに

				定着指導を行う ○3年生には社会接続支援として、早期離職防止のための講話を行う		よる事業所訪問は効果的であった。3年生に対して、具体的に社会接続支援を重ね、早期離職防止対策を行う。
生徒指導	遅刻指導	遅刻者の減少	○毎日の遅刻者を5人以下	○登校指導の実施や遅刻届の活用することで遅刻する生徒へ声かけを行う	D	○毎日の遅刻者数は5名を越えている。基本的な生活習慣が身につけていないことが主な原因と思われ、前向きな学校生活になるように支援を行う。
	自尊感情	自尊感情の向上	○「自分が好き」と答える生徒60%以上	○生徒が主体的に行う委員会活動を増やす ○部活動生との活躍を紹介する場を作る	D	○「自分の事が好き」という回答したのは36.3%であった。生徒による主体的な活動の場を作り出し、頑張りを認め合えられるような工夫を行う。
人権教育の推進	人権教育・適応指導	中途退学の防止	○中途退学等の進路変更者9人以下	○中学校との連携を行い、週1回の生徒支援会議やSC・SSWの活用により支援体制を充実させる ○学業不振の生徒について早めの対応を行う	D	○2学期末時点で転退学者数は7名であり、昨年度2学期末時点とほぼ同数である。SC・SSWの活用による支援を行っているが、全体への周知も必要だと思われる。
	特別支援教育の充実	個別の教育支援計画と指導計画の作成と引き継ぎ	○診断がある生徒の個別の教育支援計画、指導計画の作成率100%達成	○SCや特別支援学校による訪問指導事業を活用し、個別の教育支援計画と指導計画を作成する	B	○診断がある生徒の個別の支援計画、指導計画については全員作成することができた。今後は教科担当者にも周知してさらなる活用を図ってきたい。
いじめの防止等	「命を大切に する心」を育む教育	命の教育・いじめ問題の防止と解決	○「心のアンケート」での改善傾向の項目割合80%以上	○「命を大切に する心」を育むプログラムユニットを実施する ○「心のきずなを深めるモデルプログラム」により、指導体制を充実させる	D	○「心のアンケート」での改善傾向の項目割合はわずかに11%となった。「心のきずなを深めるモデルプログラム」の内容を学年ごとの実態に沿った形で取り組む必要がある。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会の開催	マニュアル作成と防災教育の実施	○大規模災害に対応したマニュアル等の作成 ○合同避難訓練をはじめとした防災教育の推進	○自治体・関係機関と連携し、防災・避難所運営マニュアルを完成させる ○避難所運営に関する職員研修を実施する ○合同避難訓練をはじめとした防災教育を推進する	C	○防災・避難所運営マニュアルは完成したが、あさぎり町との避難所等利用に関する基本協定の締結までには至っていない。 ○心肺蘇生法やAEDの操作等を学ぶ職員救急法講習会を開催したが、避難所運営に関する職員研修は実施できなかった。また、校内のみで避難訓練(ブライント訓練)を実施した。
特色ある学校作り	心のきずなを深めるモデルプログラム研究	豊かな学校生活と未来のための自己理解と表現・対人スキルの向上	○自己肯定感と他者理解の向上による人間性豊かな集団づくり ○コミュニケーションスキルの向上 ○「いじめ通報窓口アプリ」の導入推進 ○研究成果の各学校への普及	○南校スタンダードによる「分かる授業」を展開する ○ピアサポートによる支え合う集団づくりを推進する ○ソーシャルスキルトレーニングや学校行事を通し、自尊感情や自己肯定感を醸成する ○「いじめ通報窓口アプリ」の登録率を向上させる ○公開授業の開催とホームページを活用した研究成果の発信を行う	B	○スクールカウンセラーと連携し、ピア・サポート講習会を4回開催し、支え合う集団や南校版ゲートキーパーの育成を目指した。悩みなどを共有し合うことが支え合いにつながることや他者の話を受け止めることの大切さについて理解も深まった。 ○南校スタンダードに取り組むことで「授業での指示が分かりやすい」「説明が解りやすい」の評価が4段階で0.3ポイント程度向上した。
	SPHの取組	SPH活動の充実	○全職員による研	○15の研究を通したス		○計画的な研究を展開す

	実	究 15 項目の着実な推進 ○ 3 年間の研究成果の検証と情報発信	シャリストの育成を推進する ○ 関係機関と連携した研究を推進する ○ GAP 認証の基準に則った施設及び圃場の整備と安全教育を推進する ○ ホームページや発表機会を活用して研究成果の発信を行う	B	ることができ、成果発表会や運営協議会等でも高評価をいただいた。ホームページや産業教育フェア等の発表機会を活用して研究成果を発信することができた。しかし、GAP 基準に則った圃場管理については徹底するまでには至らなかった。
--	---	--------------------------------------	---	---	--

4 学校関係者評価

- 評価された点
 - ・授業環境がとても充実している。
 - ・毎日遅くまで、そして休日にも返上し生徒たちに力を注いでいただくなど、細かいところまで指導が行き届いている。
 - ・南稜高校はいろんな体験ができ、とても素晴らしい学校である。着実に成長を感じられる。
 - ・特色ある教育活動で貴重な経験ができるのは良いことだ。生徒たちの学校生活が充実したものになるように、生徒たちの特性に合った指導を期待している。
 - ・これからも南稜高校を応援しています。負けんばい！！南稜
 - ・挨拶をしてくれる生徒も多く、とても気持ち良い。
 - ・生徒たちが毎日楽しい学校生活を送れているのは先生方の指導のお陰である。
 - ・就農塾の活動がたくさんあるのは良いと思う。
 - ・これからの南稜高校に期待します。
 - ・SPHに参加し感動した。
 - ・これからの福祉コースに期待します。水と花、緑、動物をとおして生きる力を身につけて欲しい。
 - ・生徒、保護者からの寮教育への評価も高い。先生方のお陰である。
- 課題として指摘された点や提案
 - ・生徒、保護者ともに日々の授業や生活に真剣に取り組んでいる姿が高く評価される。また、今後の学校生活の充実に向けた期待も大きい。
 - ・教育環境が整っており、特にSPH事業では今の社会の変化や動向に対応した内容であり、これから入学する生徒への学習意欲につながると感じた。
 - ・教育活動については、南稜高校の特色を生かし、少しずつ充実してきている。今後、多くの生徒が入学すると思われるので、一人一人の夢実現に向けた指導をお願いしたい。
 - ・農場設備の老朽化などの改善が必要である。
 - ・階段や段差が多く、バリアフリーを図る必要がある。
 - ・以前より校内にゴミが落ちているように感じる。
 - ・体育大会は応援団がないためか他校に比べ盛り上がり欠けるような気がする。
 - ・体調管理や学習環境作りのためにも、もっと空調を活用して欲しい。
 - ・高校生全体に言えることだが、自転車通学生はタスキもなく反射しないので危険を感じる。
 - ・登下校中の交通ルールやマナーについて、もう少し厳しく指導して欲しい。
 - ・できるだけ挨拶を徹底させて欲しい。社会に出てから苦労するし、学校の印象も変わってくる。
 - ・部活動強化を図ることで入学希望者が増え、学校が一層活気づくのではないか。
 - ・ホームページで情報を得ることができ楽しみにしているが、行事予定がしばらく更新されていない時期があった。
 - ・短期寮研修は2年・3年でも続けて欲しい。先輩後輩と一緒に研修することに意義があると思う。
 - ・生徒たちの良い経験になるので小学校での読み聞かせボランティアへの参加を検討して欲しい。
 - ・「自分のことが好き」と回答した生徒が36%しかいなかったが、高校生に「自分のことが好き」と回答させるのは難しいのではないか。自分が高校生の時期は欠点ばかり見えていた。
 - ・問題行動の防止並びにSNSの正しい使用について、親への呼びかけや指導を行い、家庭教育を強化する必要がある。問題が起こってからでは遅い。
 - ・効果的な寮教育に繋げるために、寮母との情報共有もお願いしたい。
 - ・新しい部活動を作ることはできないか。中学生の中には入部したい部活で学校を決める者もいる。

5 総合評価

- 本年度の学校教育目標から4つの重点目標を掲げた。各重点目標の評価は次のとおりである。
- ① 学力の向上、進路第一希望の達成、「南稜スタンダード」の活用

「南稜スタンダードに従った分かる授業が展開されている」と回答した職員は83.6%であり、南稜スタンダードを意識した授業が展開されている。その結果、生徒からは「授業中の指示や説明はわかりやすい」85.5%、「板書は丁寧で読みやすい」83.3%、「わかるまで教えてくれる」81.0%と高い評価を得た。また、保護者からも「南稜高校への進学は、子供の将来にとって意義がある」90.8%、「学力向上に期待している」80.4%と高い評価を得た。進路第一希望が叶えられなかった生徒もいたが、進学については全員合格し、就職についても現時点（2月末）での内定率は97%である。引き続き、学力向上や進路第一希望の達成に向けた早期からの指導に取り組んでいく。
 - ② 出席率の向上、転学・退学の減少

心のきずなを深めるモデルプログラム研究指定校として、生徒自身に自己を見つめさせ、自己を表現する力や自己肯定感を高めさせるとともに、生徒達がお互いに気付いて、寄り添って、受け止めて、信頼する大人に伝えることができる人間性豊かな集団作りや登校指導や全校集会を通じた規範意識の醸成

にも取り組んだ。保護者からは「落ち着いたよい学校（81.7%）」、「着実に改善（90.4%）」と概ね高い評価をいただいた。

出席率は、1年生が96.9%、2年生が96.5%、3年生が98.5%であり昨年度より若干改善した。また、転学・退学は10名（2月末現在）であった。教育相談部を中心に担任をサポートしながら適応指導に取り組んだが解消するまでには至っておらず、特に1・2年生に長欠者や進路変更者が多い傾向がある。さらにSCやSSWの活用や関係機関との連携強化等を図っている。

③ 環境整備（教育環境・校内美化など）

掃除や整理整頓については、保護者の評価が93.1%と高かった反面、職員は58.2%、生徒は61.6%と低い結果となった。掃除指導とマナーを守った節度ある言動ができる生徒の育成を徹底していく。

施設設備面での教育環境の整備としては、本年度、食品科学科の実習棟が完成し、教育活動がさらに充実するものと思われる。今後も現在ある他の施設を丁寧に使用しながら、長期の営繕計画を立て対応していく。

④ SPHの全職員での推進

SPH指定の最終年度として、研究15項目毎に専門性の高い活動を組織的に展開した。生徒の評価は、「学ぶ意欲が高まった」85.3%、「課題解決能力が高まった」73.6%、「スキルアップに繋がった」81.0%、「将来の職業に対する意識が高まった」84.0%と高評価だった。また、82.0%の保護者が、SPH事業が評価できると回答した。

SPH委員による外部評価結果は、2年次を上回る高い評価を受けた。特に、「将来、地域の活性化への貢献が期待される」、「地域を担う生命総合産業のクリエイターとして期待が持たれる」、「学校の学習指導は、SPH事業で目指す人材育成に効果的である」の項目で高評価を受け、地域や他校のモデル事業としても大きな成果となった。今後も本校独自の取り組みとして、PDCAを回しながら継続していきたい。

なお、自己評価総括表でC・D評価の項目に関しては、次年度改善に向けて取り組んでいく。

6 次年度への課題・改善方策

次に挙げる本年度、十分には達成できなかった項目などの課題改善に重点的に取り組みたい。

① 募集定員の確保

志願者数は目標を達成したが、定員数の確保には至っていない。ホームページやマスコミをさらに活用し、本校の特色ある学習活動を周知し、定員確保に努めていく。

② わかる授業の実践

南稜スタンダードによる授業の工夫と改善を積み重ね、「わかる授業」「もっと学びたい授業」の展開に心がけるとともに学習習慣の定着を図る。

③ 自尊感情や自己肯定感の涵養

学校行事や部活動、南稜スタンダードによる授業展開などにおいて、生徒一人ひとりが自分自身に自信をもち、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲とコミュニケーション能力の向上に努める。

④ 基本的な生活習慣の確立

生徒の挨拶は概ねできているが、整容の面で一部乱れが見られる。また、遅刻がたび重なる生徒も見られる。個々の生活の乱れに起因する要因を具体的に把握し、家庭との緊密な連携をとるとともに、生徒との信頼関係を築き、学級経営においてもお互いに声を掛け合える集団に高めることで基本的な生活習慣の確立を図っていく。

⑤ 教育相談体制の充実

中途退学等の進路変更者数の減少を目指し、学力の定着、面談の定期的な実施、自治体や関係機関との連携強化を図る。併せて、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを起こさない雰囲気づくりやいじめ通報アプリの活用等に取り組み、いじめ件数0件を目指す。

⑥ 働き方改革の推進

勤務時間を意識した働き方の推進や会議や研修、行事の精選、職場環境の改善等に取り組み、働き方改革を推進していく。